



眠る村

東海テレビドキュメンタリー劇場 第11弾

第66回
菊池寛賞

2017年日本民間放送連盟賞
《特別表彰部門/放送と公共性》
最優秀賞

ナレーション：仲代達矢

プロデューサー：阿武野勝彦 | 音楽：木多俊之 | 音楽プロデューサー：岡田こずえ
撮影：坂井洋紀 | 音声：福田健太郎 | オーサリング：山口幹生 | 音響効果：柴田勇也 | TK：須田麻記子 | 編集：奥田繁
題字：山本史風 | 監修：門脇康郎 | 監督：齊藤潤一 | 鎌田麗香 | 製作・配給：東海テレビ放送 | 配給協力：東風
2018年 | 日本 | 96分 | ドキュメンタリー | DCP | ©東海テレビ放送

S L E E P I N G V I L L A G E

www.nemuru-mura.com

本件、
未だ解決を見ず





この事件は、おかしい

三重と奈良にまたがる葛尾。昭和36年、村の懇親会で女性5人が死亡した。ぶどう酒に混入した毒物による中毒死。事件から6日後、逮捕された奥西勝が犯行を認める。当時35歳。「妻と愛人との三角関係を清算するためだった」と自白した。すると不思議なことに、村人たちは奥西の犯行を裏付けるかのように、パタリパタリと証言を変えていった。

だが迎えた初公判、奥西は一転無罪を主張。自白は「強要されたものだ」と訴えた。一番は無罪。しかし二番では死刑判決、最高裁は上告を棄却。昭和47年、奥西は確定死刑囚となった。村人たちは事件が起きた公民館を取り壊し、奥西家の墓を掘り返して畑のなかへ追いやった。奥西は独房から再審を求め続けたが、平成27年10月、帰らぬ人となった。享年89歳。八王子医療刑務所で独り、無念の獄死だった。

『ヤクザと憲法』『人生フルーツ』の東海テレビが、昭和のミステリーを揺り起す。

名張毒ぶどう酒事件——戦後唯一、司法が無罪からの逆転死刑判決を下したこの事件。57年が経った今もなお、多くの謎がある。決定的な物証の不在、自白の信憑性、二転三転した関係者たちの供述。そして、なぜ司法は頑なに再審を拒むのか。その謎に挑むのは、『ヤクザと憲法』『人生フルーツ』の東海テレビ放送。ナレーションはかつて奥西勝を演じた仲代達矢。平成最後の冬に放つ、渾身のミステリー。第66回菊池寛賞を受賞した『東海テレビドキュメンタリー劇場』第11弾。



www.nemuru-mura.com [fb.com/tokaidoc.movie](https://www.facebook.com/tokaidoc.movie) [@tokaidocmovie](https://twitter.com/tokaidocmovie)

